

(1)事業の概要等

令和6年度 事務事業評価シート

事業番号		B0503-1		事務事業名			建築物等及び空き地適正管理事業(一般事務事業)			事業期間		平成4年度		～		令和8年度以降				
実施計画事業		○		担当部			市民生活部			担当課・担当係		環境対策課		環境保全係						
実施計画事業以外の事業				基本 施策			5			展開 方向		3		事業・予算区分		一般事業		款 4 項 1 目 3 大 2 中 1		
事業の概要	小牧市まちづくり推進計画(R5年～R8年)		分野別計画編		基本 施策			5			展開 方向		3		事業・予算区分		一般事業		款 4 項 1 目 3 大 2 中 1	
	根拠法令 ・個別計画		小牧市建築物等及び空き地の適切な管理に関する条例										対象 (何・誰を対象に)		市民の生命身体に危険が及ぶ管理不全な空き地					
	目的 (何のために)		生命身体への差し迫った危機を回避し、市民の生活環境の安全を確保する。										内容 (どのような方法で)		緊急安全措置により必要最低限の範囲で、樹木の伐採等により、危険の要因を除去する。					

(2)事業費

		項目		単位等	R2	R3	R4	R5	R6	
事業費	直接経費	決算額	財源	一般財源	千円			0	0	
				国・県支出金				0	0	
				その他				0	0	
			計(A)			0	0	0	0	
			対前年比		%	—	—	—	—	
	予算額		千円			1,184	1,150	1,150		
	人件費	正規職員		人			0.06	0.1		
		正規職員(平均賃金)		千円	0	0	449	749		
		その他職員		人			0	0		
		その他職員(時給×時間)		千円			0	0		
計(B)		千円	0	0	449	749				
事業費合計(C=A+B)				千円	0	0	449	749		

(3)業績

展開方向における指標の推移	基本施策	5	指標名		単位	方向性	基準値	R5	R6	R7	R8
			1								
展開方向	3	2									
		3									

指標	指標ほか		単位		R2	R3	R4	R5	R6
	成果指標	空き地の管理不全に係る苦情対応件数	件	目標			—	—	—
				実績			14	25	
	活動指標	緊急安全措置により樹木を伐採した件数	件	目標			—	—	—
				実績			0	0	
	単 事 業 あ た り 費	受益者数(a)		人			—	—	
		受益者あたり事業費(=C/a)		円					

(4-1)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維持(改善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの				
	事業の達成状況と課題	越境等による樹木の管理不全に対する苦情は、令和4年度は14件、5年度は25件と増加傾向にあるものの、倒木のおそれがある等、市民の生命身体に危機が迫っていて緊急対応を要する事案は、令和4年度、5年度ともなかった。	今後の実施内容・今後の改善内容	今後も実施することがないのが望ましいが、市民の生活環境の安全を守るためにも、緊急対応に要する経費として引き続き現状規模で実施できる体制を整えておく必要がある。			
	改善の有無	無		千円	節	細節	細々節
これまでの改善内容		事務事業評価額					

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

事業分析		評価項目	評価結果	評価結果を判断した理由
妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である	緊急事態に対応するためのものでやむを得ない。	
有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	一部の住民に影響がある	万一、緊急事態が発生した際に、迅速かつ適切な判断・対応がしにくくなるおそれがある。	
効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	現状のままでよい	造園業者等による樹木の伐採に要する費用であり、件数も必要最小限としており、削減することは困難と考える。	
	外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	現状のままでよい	現状、造園業者などへの委託により実施しているものである。	
公平性	受益者負担は適正か	適正である	伐採に要した費用は、原因者(樹木の管理者)から回収することとしている。	